

ようこそ、ファミリーの声が 響き合うラウンジへ

FUJITSUファミリー会は、会員の皆さんに交流の場を提供しています。会報Familyもその1つ。直接お会いする機会が減っているからこそ、この場をたくさんの意見やニュースが集まる、そして会員同士が学び合うコミュニティラウンジにしたい。そこで、今号より、各支部の最旬情報をお届けする「BranChannel (ブランチャチャンネル)」を発信します。さっそく、会員の声がクロスオーバーする、会員だけの特別なラウンジ、オープンします。

Contents 会報Family VOL.406

- 3 LS研総合発表会 2022
- 7 新プログラム「ミラトラ」体験レポート
～パーパス・カービングの実践から、変革への道筋が見えてくる～
- 10 Futures' Literacy 未来を読み解く
深刻化・多様化するエネルギー問題の解決へ
創る、蓄える、循環させる、エネルギーの未来技術
- 14 #わが社のパーパス
自然の恵みと叢の力に由来する日本独自の酒造文化で
世界を、“Wa”でいっぱい。
三和酒類株式会社様
- 17 Family's Information
- 18 BranChannel
 - 18 From 関東支部：若手幹事会キックオフ！
若い世代の斬新な発想とワイガヤパワーを活かして、
ファミリー会改革に挑戦
 - 20 From 中国支部：株式会社サタケ様
「ミラトラトライアル」の成果を中国支部全体に広げていきたい
～「ミラトラ」先行体験で従業員間の相互理解を深める～
 - 22 From 沖縄支部：金秀グループ様
沖縄型SDGsの実践事例を発信！
～金秀グループの女性社長に聞く、女性活躍推進の秘訣～





LS研究委員会

LS研総合発表会2022

2022年5月17日、LS研総合発表会が開催されました。残念ながら、3年連続で新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施していた集合形式を変更し、今年は発表者と代表者のみ会場にお越しいただき、発表をオンラインライブ配信する形で開催されました。

本イベントは、LS研活動の柱である「研究分科会」活動の1年間の成果を会員企業の皆様や有識者の方々と情報共有の場として開催し、会員各社における課題解決や新技術適用に向けたヒントなどにお役立ていただいています。

今回は、2021年度に活動した12の研究分科会が多彩な成果発表を行いました。



LS研究委員会幹事長ご挨拶

三菱ケミカルシステム株式会社
大道 尚彦 氏

2021年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に振り回された1年でしたが、そのような中、当年においては、オンラインを中心とした活動を前提に参加メンバーを募り活動を開始し、ほとんどの方が本日の成果発表まで直接会うことなく活動を進めてこられました。

実際に会うことの叶わない約10名で「研究」を進めていくということは、当初考えていたよりも困難の連続だったかと思います。1年を振り返り、達成感、充実感などはいかがでしたでしょうか。

コロナ禍で自社の業務も多忙になる中、メンバー同士工夫をして助け合いながら、ここまでよく研究活動を継続してくださったことに、心より敬意を表します。

まさに、LS研の精神である「Give & Take」「Challenging Innovation」を体現していただけたものと感じております

し、そしてこの研究活動で得た研究成果・経験・知見・仲間たちを、ぜひご自身の業務や人生の幅を広げるために、余すことなく使っていただければと思っております。

LS研究委員会は本来、リアルな異業種交流の場です。当初のイメージとのギャップを感じ、また物足りない思いをされた具体的な場面もあったかと思います。こればかりは、皆様の安全を慮り、苦渋の決断をせざるを得なかったことに尽きます。ご容赦いただければ幸いです。

さて、この総合発表会はLS研の中でも最も大規模で、最も華やかなイベントです。過去2回は、この会場に主役の研究分科会メンバーがいない状態で執り行いましたが、誰もががハッピーな状態とは言えませんでした。

今年度は、少しでも晴れやかでかつ臨場感のある総合



発表会に近づけるため、何度となく幹事の皆様と相談した結果、ここに12の研究分科会の代表者をお呼びすることとなりました。


ご視聴中の皆様、本日の発表内容は、研究分科会参加メンバーがLS研会員にとっての有用性・先見性を追い求めた結果であります。各社における業務課題・経営課題の解決への一助になりますれば幸いです。

最後に、本研究分科会活動に大事な部下を託して下さった上司の皆様、技術的な側面から支援くださった総勢24名のテクニカルアドバイザーの皆様、また研鑽の場をご提供くださった富士通様にも、心からの感謝を申し上げます。

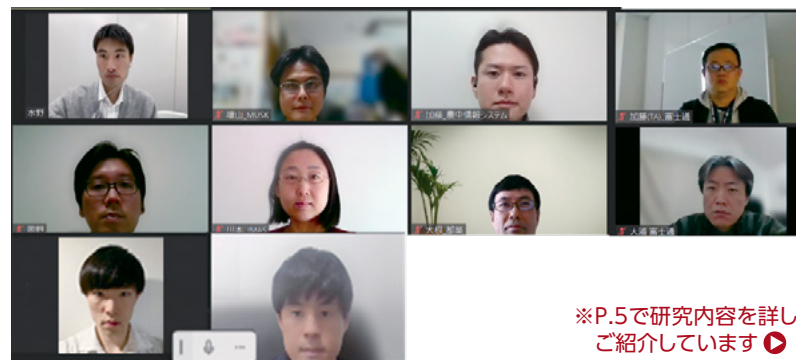
今後とも皆様方の積極的なご参加をお願いしまして、私の挨拶とさせていただきます。

研究成果審査 受賞分科会


LS研幹事および富士通社内企画委員により、研究成果の審査を実施しました。「成果の先見性」「成果の有用性」「研究の掘り下げ」などの評価項目をもとに、最優秀研究賞1編、優秀研究賞3編が選出されました。(昨年新設された「独創的研究賞」は、該当なし)
 この他に、当日の発表内容を評価する「発表賞」3編が選ばれました。


最優秀研究賞

Leading-edge Systems
最優秀研究賞
ハイブリッド/マルチクラウドに向けたシステム構成の設計と選択指針に関する研究(クラス2)




※P.5で研究内容を詳しくご紹介しています▶


優秀研究賞

Leading-edge Systems
優秀研究賞
テレワークにおけるコミュニケーションを中心とした働き方の研究(クラス1)

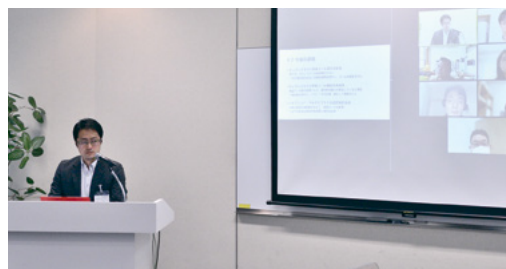
研究概要 テレワークではICTツールを介したコミュニケーションが欠かせない。当分科会はチームのコミュニケーションと効果性に影響を与えるチームの心理的安全性に着目した。ICTツールを介したコミュニケーション下の心理的安全性を損なう課題を整理し、その課題を解消するICTツールを活用した施策をまとめた。
 この施策の効果を検証し、コミュニケーションシーンごとに有効だと思われる施策を「3週間でチームの心理的安全性を向上させる提言書」として作成した。





優秀研究賞

Leading-edge Systems
優秀研究賞
ハイブリッド/マルチクラウドに向けたシステム構成の設計と選択指針に関する研究(クラス1)

研究概要 オンプレ・クラウドの選択指針を解明することを目的として、IPAの非機能要求グレードをベースに、システムの要求する非機能要件を選択することで、オンプレ・クラウドの適正評価をレーダーチャートで可視化するツールを作成した。また、ツールを利用するにあたっての注意事項や評価結果の見方、オンプレ・クラウド導入の業界傾向や過去事例などをガイドラインとしてまとめた。




優秀研究賞

Leading-edge Systems
優秀研究賞
テレワークにおけるシステム運用業務のあり方の研究(クラス2)

研究概要 テレワークは新型コロナウイルス感染症の拡大への対応策として普及したが、システム運用については文面のみでの意思疎通を余儀なくされる点やオンライン会議におけるコミュニケーションの難化から問い合わせ対応・障害対応に課題があることを明らかにした。
 上記の課題に対応し、テレワーク時でも出社時と変わらない作業時間・作業効率でのシステム運用を目的に、問い合わせフォームと障害対応ガイドラインを作成し、検証を実施することで、有効性を確認した。





Leading-edge Systems

最優秀研究賞



ハイブリッド/マルチクラウドに向けたシステム構成の設計と選択指針に関する研究 (クラス2)

研究概要

1. 研究の背景／課題／問題

企業のクラウド移行は2021年現在も増加傾向にあり、中小・中堅企業だけでなく大企業でも多くなっている。クラウド移行にはハイブリッドクラウドとマルチクラウド等、製品やクラウド化する箇所で構成パターンは無数にあり、クラウド化の選択肢が幅広い。ただ選択肢が多いため、担当者に深いクラウド知識がないと最適なシステム構成の策定が難しい。現在、クラウド知識が少ない場合もシステム構成の策定を助けるガイドラインやマニュアルは多岐にわたり存在するが、システム設計指針は抽象的なものが多く、具体的な指針を提唱しているものは少ない。

2. 研究アプローチ

前述の課題を受けて、クラウド知識の浅い場合でも、最適なクラウドシステム構成の策定を容易にするため、以下研究プロセスを進める。

- (1) ハイブリッドクラウドとマルチクラウドの構成案をサンプルで策定する。
- (2) 構成案を評価するための評価軸を策定し、(1)で策定した構成案を実際に評価する。
- (3) 算出した評価結果に関して、分析や検証を行う。

実際に、サンプルでシステム構成案を策定、評価の決定までをシミュレーションとして行うことで、最適な構成案の策定手順や評価方法を研究する。そして、その策定手順や評価方法を別のサンプル事例でも試行することで妥当性を証明する。また、クラウド化する研究対象のシステムとして、大企業でよく使われるデータウェアハウス (DWH) を選定した。

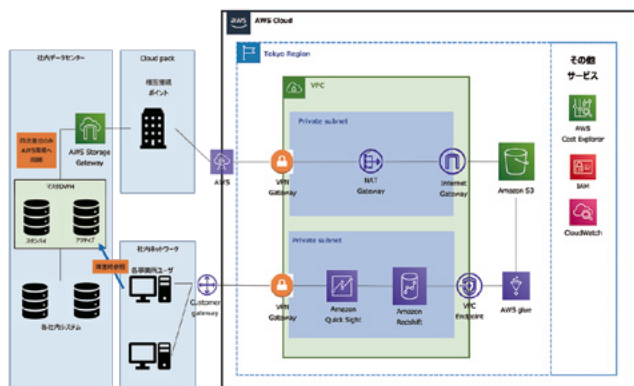
3. 研究内容／研究成果

ハイブリッドクラウドを2案、マルチクラウドを1案サンプルのシステム構成案として策定した。

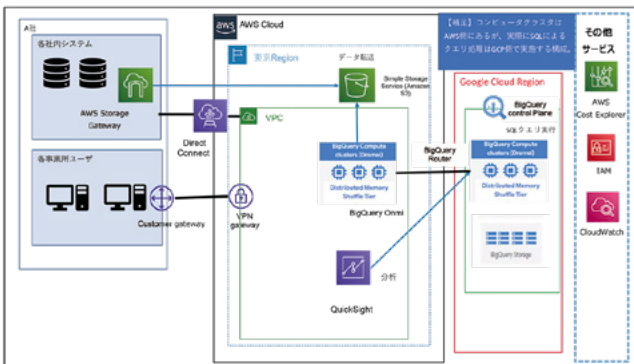
研究の結果、大企業がクラウド移行する際の策定手順は以下が最適であると考えた。

- ① 1つのクラウドベンダーを利用したすべてクラウドのシステム構成を検討。
- ② オンプレミス環境の方が適している部分がある場合や、クラウド化できない部分がある場合は、ハイブリッドクラウド構成を検討。
- ③ 機能別に見てより自社のニーズにマッチした他のクラウドサービスがあった場合は、そのサービスに置き換えてマルチクラウド構成を検討。

ハイブリッドクラウド構成案



マルチクラウド構成案



代表者コメント

率直にこの一年間は、研究会で議論、宿題で各自研究、次の研究会で宿題の発表の繰り返しで大変でした。ただメンバー全員が議論や研究の手を抜かずに論文を書ききり、成果も出すことができうれしいです。本研究の成果が今後の研究会の一助になれば幸いです。研究をご支援いただいた事務局、TAの皆様、メンバーの方々本当にありがとうございました。

みずほリサーチ&
テクノロジー株式会社
水野 凌作氏





第1会場 ゼロトラストにおける 企業セキュリティの在り方に関する研究

研究概要 急速に変化する社会や環境への対応や高度なサイバー攻撃への対策に合わせて、ITサービスの多様化が求められる昨今では、従来の境界型セキュリティ対策では不十分とされ、すべてのネットワークを信用しないという考え方に基づいた「ゼロトラストセキュリティ」に注目が集まってきている。

本研究では企業が求めるゼロトラストモデルの理想像を確立し、各構成要素の導入優先順序を明らかにすることで、企業のゼロトラスト導入推進の材料とすることを目的とした。



第2会場 SDGs経営を見据えた ICTの活用に関する研究

研究概要 企業はSDGs活動をいかに組織全体に浸透させるかが求められているが、どのようにICTを活用し、どの17のゴールや169のターゲットを目指せば良いか不明確である。

SDGsにおけるICT活用事例を調査・収集・再編することで、自社で活用できるICTからSDGsターゲットを判別できると考えた。本研究では、SDGsとICTの関連性を明確化する事例集、および定量的・定性的な分析結果としてICTが活用されやすい分野と業界をまとめた。



第3会場 テレワークにおけるコミュニケーションを 中心とした働き方の研究(クラス2)

研究概要 チームの生産性に最も関係の深い心理的安全性がテレワークにおいて低下しており、「相談のしやすさ」が最も課題になっていること、「感情を伝えづらいこと」が主原因であることを明らかにした。原因分析の結果を踏まえ、心理的安全性の向上策としてテレワーク下でも簡易に「感情を伝える」手法を立案した。有効性を確認できたことから、チームのコミュニケーションや生産性で課題のある企業においては、ぜひ実践していただきたい。



総評

LS研運営部会長
株式会社トヨタシステムズ
大平 宏氏

成果報告書の審査は2段階で行われ、審査員は、私たち幹事と富士通の社内企画委員です。一次審査でまず8編に絞り、二次審査で上位4編を入賞としました。審査は研究結果の有用性・先見性を追求しているかに主眼を置き、良い課題設定をしているか、またその課題をどのように深掘りして正当性を明らかにしているかを評価します。さらに論文としての構成や読みやすさなどを加味します。

今年度の論文で多かったパターンは、自らの仮説に基づきガイドラインのような成果物を作成し、その有用性をアンケートで測る、というものでした。しかしアンケートでは有用性は測れても仮説の正しさを証明したことにはなりません。昨年からの傾向はあったのですが、今年度は特にこのパターンが多く見られました。

論文は本来、課題設定があり、仮説があり、それを裏付ける検証を通して、これまでにない知見を導き出してゆくものです。成果物として

のガイドラインの使い方やシーンの説明に終始し、その中身がどのような検証過程を経て生み出されたものなのか、といった肝心な点がきちんと説明されていないようでは、制作記事のように見えてしまいます。テレワーク化で、広い視野や新しい着眼点を得ること、また自ら手を動かして正しさを証明することが難しかったのかもしれません。

このあたりは、何も研究分科会メンバーだけの問題であると申し上げるつもりはなく、研究活動をサポートする我々を含めたステークホルダーも、ねじを巻き直す必要のある課題と捉えています。2022年度はこの課題に取り組むべく、可能な限りリアルに会って討論する機会を増やし、幹事や企画委員の関与も深めてゆく所存です。

最後になりますが、ご参加されました皆様には、この経験をぜひとも今後の活動に活かしていただきたいと思います。

